

4 交通環境の変化

1 自動運転技術の進展

自動運転は、自家用車・移動サービス・物流サービスに導入することにより、運転手不足の解消や交通事故の削減、渋滞の解消や緩和、高齢者等の移動手段の確保、国際競争力の強化等につながる技術として期待されています。

こうした中、自動運転の社会実装に向け、道路交通法の改正や手引き策定など環境整備が整いつつあります。

県内市町においても自動運転バスの社会実装に向けた取組が進められており、東北自動車道の県内区間(佐野SA-大谷PA間)では、国による自動運転トラックの実証実験が予定されています。



資料：日光市



資料：下野市



資料：下野市

図表35: 自動運転バス実証実験の状況



資料：小山市・下野市

図表36: 自動運転バス実証実験の車両及び車内モニター

2 県央地域の東西基幹公共交通軸の強化

全国初の全線新設による本格的なLRTとして「宇都宮芳賀ライトレール線(ライトライン)」が新規開業となったことに加え、JR宇都宮駅西側の延伸に向けた取組が進められるなど、県央地域の東西基幹公共交通軸の強化が進められています。



資料：宇都宮ライトレール株式会社

図表37: ライトラインの路線図



図表38: ライトラインの利用状況